



北条早雲

(伊勢宗瑞)

武にして禅にゆく人

ガイドブック



岡山県 井原市 法泉寺蔵

Hojo Soun (Ise Sozui)



【北条早雲（伊勢宗瑞）ガイドブック】

発行／北条早雲公顯彰五百年事業実行委員会

<http://hojosoun.com>

◎小田原の観光について

おだわら NAVI <http://www.odawara-kankou.com/>

小田原市 HP <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/>

◎お問い合わせ先

一般社団法人 小田原市観光協会 TEL:0465-22-5002

*記載内容に変更があった場合は hojosoun.com に掲載します。

2019.9 7,000





北条早雲公五百年

北条早雲公没後五百年

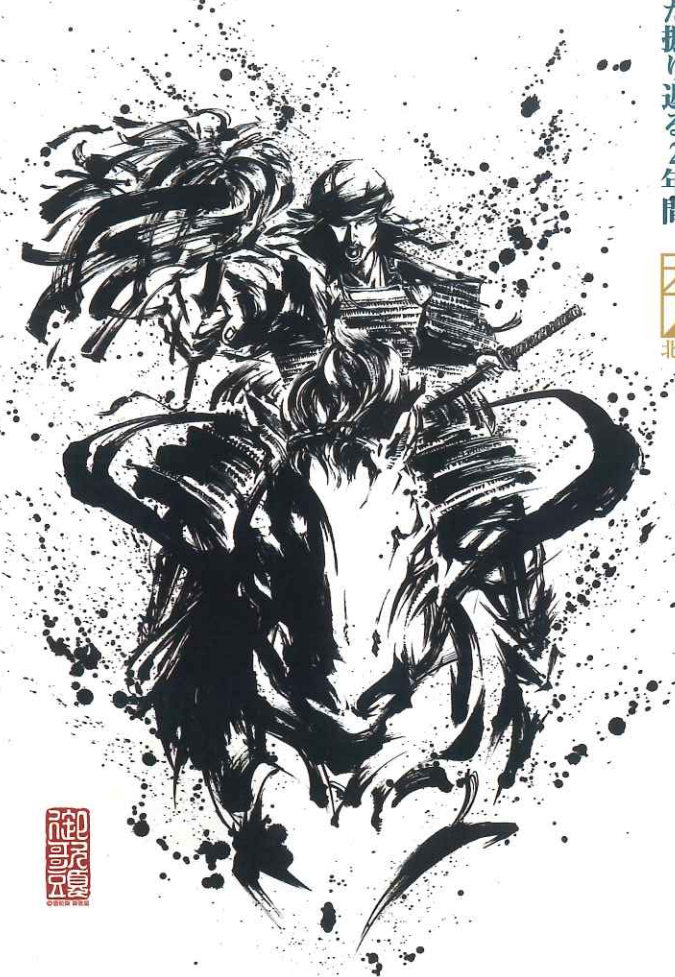
領民の安寧を理想とする国づくりを行った

北条早雲の事績を今また振り返る2年間



北条早雲公五百年

2019年は北条早雲公没後五百年という節目の年。領民の安寧を願い、自身の理想とする国づくりを行った早雲公の事績を改めて顕彰することで、ゆかりの地に住む市民が誇りを感じ、地域の魅力向上と活性化へ繋げていきます。2018年は、北条氏の本拠が小田原となった1518年から五百年目となることから、「小田原開府五百年」として、2019年は「北条早雲公没後五百年」として位置づけ、2年間にわたる事業として展開しています。



領民の安寧を願った北条早雲公

早雲寺殿廿一箇条

早起き・早寝、友の選び方、戸締りの重要性など、早雲が伝えたと言われる家訓。

- 一、可信佛神事 十二、讀書事
- 二、朝早可起事 十三、宿老祇候時禮義事
- 三、夕早可寝事 十四、不可申虚言事
- 四、手水事 十五、可学歌道事
- 五、拜事 十六、乗馬事
- 六、刀衣裳事 十七、可撰朋友事
- 七、結髪事 十八、可修理四壁垣牆事
- 八、出仕事 十九、門事
- 九、受上意時事 二十、火事用事
- 十、不可爲雑談虚笑事 二十一、文武弓馬道事
- 十二、諸事可任人事

《廿一箇条 現代語訳》

- 四、手水は素早くすませること。水はたくさんあるからと無駄遣いしてはならない。
- 九、主君から命を受けることがあれば、たとえ遠くに列席していても「はい」と返事し、心から謹み承ること。退出は素早く、その由を調べ上げての報告の折は、ありのままを申し上げなさい。

*その他の現代語訳は北条早雲公顕彰五百年事業HPに記載。

民や家臣を大切にす思想

疫病が流行った際、早雲は領民を救うため、京都から薬を取り寄せたという話や、戦場では家臣と食事を共にし、また政治においても家臣の意見を取り入れる体制を整えるなど、家臣や領民にも慕われていたと言われている。

四公六民

それまでの「五公五民」と言われる、収穫量の半分が年貢で取られていたものを、6は農民のものにするという減税政策を行っていた。



戦国時代を駆け抜けた 北条早雲の生涯



備中から駿河 そして相模へ

戦国時代の魁として知られる北条早雲は、備中荏原荘（岡山県井原市）を治めていた伊勢氏の出身とされる。当時の史料では、伊勢新九郎盛時（長氏）と名乗り、伊豆に入ってから入道名の宗瑞、早雲庵宗瑞と名乗っている。本人は北条早雲と名乗ったことは無く、伊勢姓から北条姓に改姓したのは二代氏綱の時代である。

父伊勢盛定に家督を譲られた後、申次衆として活躍。さらに、姉の嫁ぎ先である駿河の今川家の家督争いを収め、今川家と幕府との間に立ち、興国寺城（静岡県沼津市）の城主として駿河国に留まった。

関八州、五代百年 繁栄の礎を築く

その後、内紛していた伊豆国を平定し、小田原城を攻略。さらに分裂していた上杉家や古河公方

を一掃し、相模国の大半を手中におさめた。一代で伊豆と相模の大半を平定し、領国経営にも手腕を発揮。関八州、五代百年にわたる北条家の繁栄の基礎を築くとともに、後の戦国大名の模範とされた。

齋藤道三、松永久秀と並ぶ戦国三大梟雄（きょうゆう）と呼ばれる事もあるが、実際には治世の根本は民衆の信頼が大事であると領民の安寧を理想とする国づくりを行った。官位を希望せず、禅を学んだ教養人でもあった。
永正16年（1519年）、64歳の生涯を閉じた。

1456年	この年生まれる。父は伊勢盛定、母は伊勢貞国娘。
1432年	勢盛定、母は伊勢貞国娘。
1467年	応仁の乱が起こる。
1483年	はじめて室町幕府の申次衆に加えられる。
1493年	扇谷上杉定正支援のため、相模・武蔵に出陣。伊豆に侵攻し茶々丸を追う。
1495年	地震が起き、相模湾岸に津波が押し寄せる。田妻に侵攻。
1498年	大規模地震、津波で駿河湾岸など被害を受ける。
1500年	深根城を攻略し、関戸吉信を討つ。茶々丸自害。
1500年	小田原城奪取。
1504年	今川氏親・扇谷上杉朝良の連合軍が立河原の戦いで山内上杉顕定を破る。
1506年	今川氏親支援のため、三河に出陣。
1512年	鎌倉を支配下に置く。
1518年	小田原城入り。虎朱印の使用などについて定める。
1519年	伊豆葦山城で死亡。



北条早雲誕生の地、にある高越城跡。(岡山県井原市)
家督争いを鎮めた功績によって与えられた興国寺城跡。(静岡県沼津市)



早雲の足跡

■高越城

(岡山県井原市)
北条早雲、生誕の地と言われる。高越城で伊勢盛定の次男として生まれ、青年になり京に出仕する

までこの地で過ごした。高越城から3kmほど西方には、早雲の父である伊勢盛定によって開かれた法泉寺がある。

■興国寺城

(静岡県沼津市)
駿河守護・今川家の家督争いを鎮めた功績により、東駿河の領地と共に与えられた城。その後、五代百年におよぶ小田原北条氏の基礎を作った早雲の、戦国大名としての第一歩を踏み出した城がこの興国寺城であり、早雲旗揚げの城と言われている。海上に突き出した小丘全体が城で、戦国時代の北条水軍の根拠地と言われた長浜城址も沼津市にある。

■葦山城

(静岡県伊豆の国市)
堀越御所を攻め落とし、早雲が築き生涯の居城としたのが葦山城。伊豆の国市にある。永正16年8月15日、葦山城で死亡した。



葦山城址。(静岡県伊豆の国市)

■修善寺

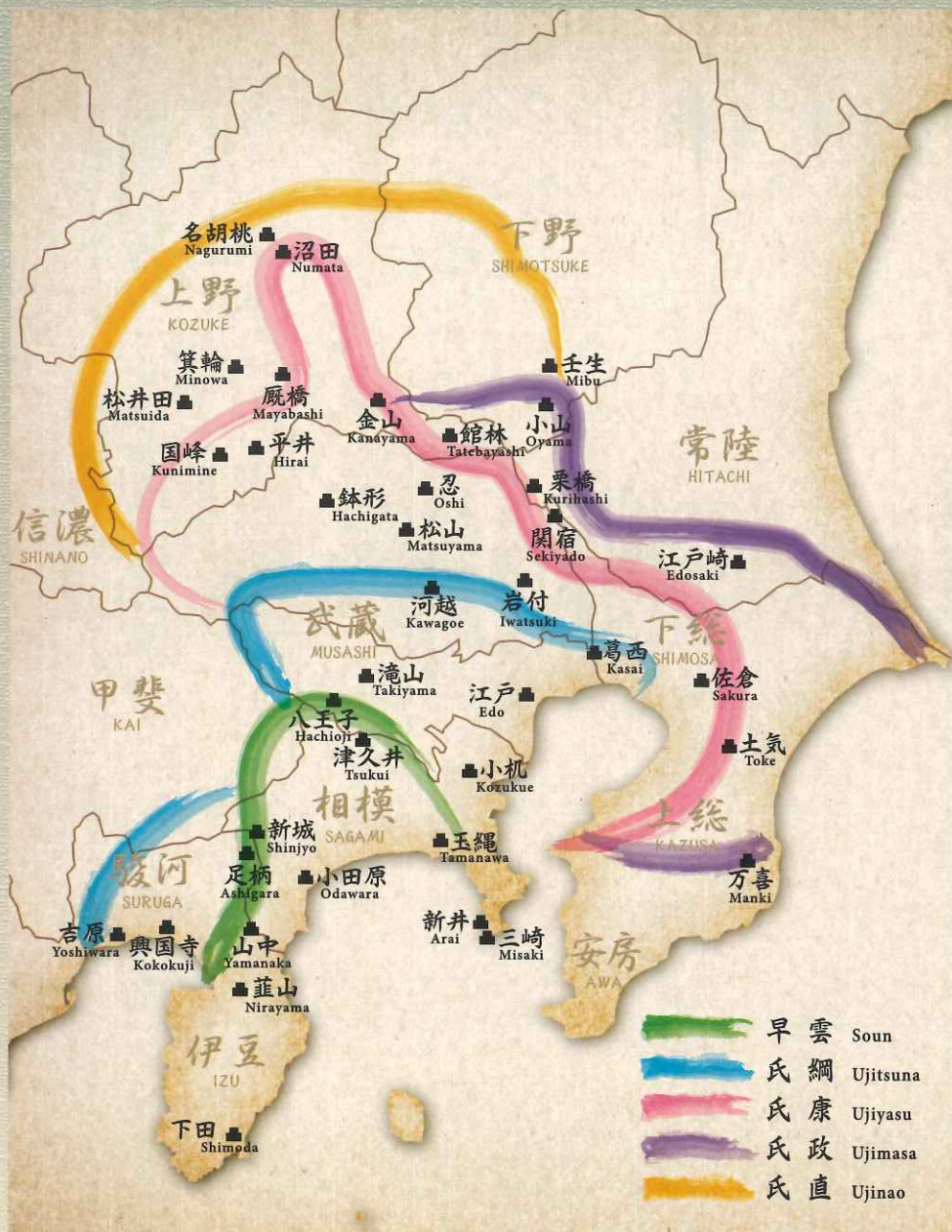
(静岡県伊豆市)
早雲は、伊豆国に討ち入る機会を狙うために湯治客を装い、修善寺を訪れ、伊豆の情勢を伺っていたと言伝承もある。葦山城で死亡した早雲は修善寺で荼毘にふされた。

早雲の足跡



北条氏支配領域図

税制改革に着手し、領民に慕われた北条氏の支配領域



北条氏の系譜

皆が平和に暮らせる理想国家づくりを目指した北条一族



1456~1519
1432?

武にして禅にゆく人 初代 早雲

禅を学んだ教養人でもあり、領民の安寧を理想とする国づくりを行った。領国経営でも優れており、他の大名に先駆けて検地や減税政策の四公六民などの改革を行い、以後五代百年にわたる北条の時代の礎を築いた。



1487~1541

善く兵を用い、父の遺訓を守る 二代 氏綱

伊勢から北条への改姓、虎朱印状の創出など、北条氏の基盤を整備した人物。また、領国を武蔵(東京都・埼玉県)、駿河、下総(千葉県の一部)にまで拡大、東国の領主としての地位を確立した。



1515~1571

文武両道の名将 三代 氏康

大規模な検地を行い、税制改正を実施、家臣の軍役などの役負担を把握するなど、領国の支配体制を本格的に整えたことで知られている。天文15年(1546)河越夜戦に勝利、勢力範囲を上野(群馬県)にまで拡大する。



1538~1590

関八州に武威をふるい、恐れざる敵なし 四代 氏政

永禄4年(1561)の上杉謙信、永禄12年(1569)の武田信玄による小田原攻めを退ける。天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの敗北により切腹。



1562~1591

大城に有て天下を引請 五代 氏直

武田氏、織田信長が亡くなった後、上野、下野(栃木県)方面に積極的に軍勢を派遣、北条氏の支配領域は最大に達する。しかし、小田原合戦敗北の後、高野山へ追放され、その翌年に亡くなる。こうして約百年にわたる戦国大名北条氏による関東支配は終わりを告げる。

北条ゆかりの地めぐり① 駅〜天守閣コース

小田原駅の周辺には、小田原城や城主ゆかりの地が今も残っている。歴史を感じながら城を目指す。



小田原城の歴史

■戦国時代

小田原北条氏による関東支配の本拠地として、栄え、戦国時代後期には日本最大規模の城郭となる。

■江戸時代

近世城郭として生まれ変わり、江戸城の西の守りを固める防衛上の要衝として、また、幕藩体制を支える譜代大名の居城として、幕末まで重要な役割を担った。

■明治以降

明治3年に廃城となり、大正12年の関東大震災では壊滅的な被害を受け、一部の堀などは埋め立てられた。小田原城は、昭和13年以降6次にわたって国の史跡として指定され、昭和35年には耐震改修及び資料展示の初となるリニューアルを施した。



幸田口門跡
三の丸への北の出入り口となっていた幸田門の跡地。現在も当時の土塁を見る事が出来る。



北条氏政・氏照の墓所
四代氏政とその弟氏照の墓所。今はたくさんの幸せの鈴が願掛けでかけられている。



小田原駅
神奈川県西部のターミナル駅であり、箱根観光の拠点ともなっている。



大手門跡
東の出入口であった門跡地には現在「時鐘堂」があり、一日2回市民に時刻を知らせている。



馬出門
馬屋曲輪へ通じる門。城外へ城主や城兵が出る時の門であることからこの名で呼ばれる。



銅門
二の丸の正門にあたる。扉の飾鉄に銅が用いられたことがその名の由来と考えられている。



小田原城天守閣
石垣からの高さは27.2mで全国7位の高さを誇る。最上階からは市街地や相模湾などを一望できる。



常盤木門
小田原城本丸の正門。元禄16年の大地震で崩壊した後、再建された。昭和41年に完成。



約1.5km 約20分



北条早雲公五百年

北条ゆかりの地めぐり②

小田原城総構(そうがまえ)を巡るコース

豊臣秀吉との対戦で効力を発揮したと言われている総構。

戦国時代末期の壮大な小田原城を歩いて巡る。

約5km 約60分

3カ月の籠城戦を可能にした、全長周囲9kmの総構の存在。

これまでの発掘調査で明らかになっている堀は、堀幅16m、深さ10m以上の規模を有する。豊臣秀吉の小田原攻めには秀吉が直接率いた約十五万人の軍勢が動員された。守る小田原勢は約三万四千騎。小田原北条氏は籠城戦での応戦を選択し、総構を頼りに秀吉軍と対

峙。この総構がなければ3カ月にも及ぶ籠城は不可能だったと言われる。この小田原合戦を契機とし、各地の城郭では総構が構築される事例が増えた。小田原合戦後、江戸時代以降もこの総構は小田原の町を守り区画する堀として用いられ、総構に囲まれた内側は「小田原府内」「府中」などとも呼ばれ、現在もその範囲を「小田原」と呼称する風習も残っている。



北条早雲公像
北条早雲のブロンズ像。像の高さは5.7m、重さは7トンある。



はちまんやまこかくひがしくわ
八幡山古郭東曲輪
ここに三代氏康が鎌倉八幡宮を分祀したとも言われている。



こみねおかのねのだいおほほりきりむがしほり
小峯御鐘ノ台大堀切東堀
小田原城の防衛機能をより堅固なものとして作られたもので、雄大な空堀と土塁が残る。



さんのまるがいかくしんぼりどるい
三の丸外郭新掘土塁
三の丸外郭と総構の結節点にあたる重要な場所。眺望にも優れていて相模湾や石垣山城が一望できる。



早川口遺構
現在低地部で見える事の出来ない虎口跡のひとつ。

- 小田原駅西口 約1分
- 北条早雲公像 約10分
- 八幡山古郭東曲輪 約15分
- 小峯御鐘ノ台大堀切東堀 約10分
- 三の丸外郭新掘土塁 約15分
- 早川口遺構 約10分
- 小田原漁港 約1分
- JR早川駅 約1分



① レボートカフェ清閑亭

清閑亭は、約100年前に建てられた黒田侯爵の別邸。館内での悠々とした時間に侯爵の紅茶や地元銘菓付の抹茶を楽しむのが好評。海を見ながらのんびりと。

☎0465-22-2834

小田原市南町1-5-73
(営)11:00~16:00
(休)火曜、年末年始



② きんじろうカフェ

小田原城から徒歩2分。報徳二宮神社境内にあるオープンカフェ。御祭神の金治郎をモチーフにしたドリンクやスイーツのほか、地元の柑橘を使ったカフェも併設。

☎0465-23-3246

小田原市城内8-10
(営)平日11:00~16:30
土日祝10:00~16:30(休)不定休



③ そば処 橋本

そば粉は、北海道産の一級品。人気は由比の船主から届く生桜えびを使った「桜天ざる」。「名物あじ井」「湘南しらす」とおそばの組み合わせも人気。

☎0465-22-5541

小田原市栄町1-13-37
(営)11:00~19:00 ※水・日・祝は18:00
(休)年中無休



④ 小田原おでん本店

茶室を備える落ち着いた店内で、小田原の新鮮な旬の食材を使用した各種のおでんを、地元のお酒や地ビールと共に。おでん会席やランチメニューもあり。

☎0465-20-0320

小田原市浜町3-11-30
(営)「本店」11:30~14:00/16:00~21:00*月曜日ランチのみ、「茶室」12:00~21:00(要予約)(休)無休



⑤ だるま料理店

明治26年創業。出汁にこだわり、小田原魚市場直接仕入れの魚介類を調理した四季折々の豊富なメニュー。特注ごま油100%で揚げた天ぷらは人気。

☎0465-22-4128

小田原市本町2-1-30
(営)11:00~20:00(LO)
(休)1月1日・2日



⑥ 幸繁割烹

季節の素材を確かな技術で美味しい割烹料理に仕上げます。新鮮な魚介を使った「小田原どん」(要予約)も人気の一品です。

☎0465-22-5155

小田原市本町2-13-29
(営)11:30~21:30(LO 21:00)
(休)不定休



⑦ 海鮮横丁 うおくに

小田原の鮮魚を取り扱って100年余りの歴史を持つ魚屋が営む海鮮レストラン。ランチは朝獲れ鮮魚がうれしい価格で、夜は新鮮な魚でお酒が楽しめる。

☎0465-22-1234

小田原市栄町1-1-7小田原地下街HaRuNe
(営)平日11:00~15:00、17:00~21:00、土日祝11:00~21:00(休)無休



⑧ 小田原お堀端 万葉の湯

湯河原の源泉から毎日届く温泉は透明でさらりとした感触が好評。味処では、小田原漁港直送の海の幸も楽しめる。

☎0465-23-1126

小田原市栄町1-5-14
(営)24時間営業、年中無休

温暖な気候、海あり山ありの豊富な自然に恵まれた小田原には海産物・農産物など食も豊富。朝獲れの鮮魚、小田原名物の練り物、歴史や四季を感じながら食事を楽しめるスポットなど、市民と旅行者の味覚を魅了し、食べるほどに深まる小田原の魅力を紹介。

北条早雲ゆかりの地
小田原食めぐり。





体験



かまぼこ手作り体験

かまぼこ博物館では、かまぼこ・ちくわ作り体験を開催中。自分で作ったかまぼこの味は一味違う美味しさ。かまぼこ博物館(鈴廣) ☎0465-24-6262*要予約 小田原市風祭245 ちくわ・かまぼこ1620円 ちくわのみ540円



梅干

北条早雲は、梅干の薬効と食べ物の腐敗を防ぐ作用に注目し、城下および周辺に梅の木を植え、梅干づくりを奨励した。江戸時代は箱根越えの旅人たちが梅干を携帯するようになり、小田原宿の名物として全国に知られるようになった。



かまぼこ

言わずと知れた小田原の名産。蒲鉾作りに適した白身魚「ぐち」を主原料とし、小田原のきれいな地下水を使い、魚の不純物を徹底的に洗い流して作るの、美しい白い色になる。製造方法はいたってシンプルだが、素材から製法までこだわり、魚の旨味を引き出している。



干物

小田原で干物が作られるようになったのは、小田原北条氏の頃という説もある。江戸時代に地場で採れる「あじ」や「かます」を開き干しにして、保存食として商売したのがそもその起こりと言われている。

「北条氏が作った文化」
今も残る・新しく
作られていく
小田原「名」土産。
関東随一の都市として発展した小田原の城下町。商人や職人も多数京や伊勢からやってきた。伊勢や紀伊半島と関東を廻船で結ぶ商人もいたこともあり、海産物などの食文化も発展してきた。そんな経済の発展を今もなお色濃く残し、長く根付いてきた特産品。小田原の名産・お土産は今なお市民や観光客を満足させ愛されるものが多い。



ういろう

北条早雲が領民の健康を守るため、永正元年(1504)、京都より外郎家を招聘。以来、25代にわたり、業のういろうは小田原で販売され、市民の健康を守り続けている。お菓子の「ういろう」は室町時代、国賓のもてなしの菓子として創作された。今でもその伝統を引継ぎ、小田原でのみ販売。



最中

禄(財産)と寿(生命)が応(まさ)に穏やかであるようにと「禄寿応穏」と記され、北条家が代々使用した「虎朱印」。その「虎朱印」や「小田原城」などをモチーフにした最中が販売されている。



柑橘

小田原の海沿い、片浦地区。この地区で作られているレモンは、海の風と温かい日差しの降り注ぐ斜面で育ち、ワックス、防カビ剤不使用。そんな「安全・安心な国産レモン」を使用した様々な小田原名産が生まれている。サイダーや生ようかんなどが人気。



曾我梅林は富士山を背景にして約3万5千本の白梅が咲き誇る。



豊富な魚介類が水揚げされる小田原漁港。名産の干物やかまぼこは月2回開催される港の朝市でも購入可能。



東海道名物ういろうの店舗。お城の様な独特の店舗も外郎家の伝統の一つ。



レモンやみかんなど豊富な種類の柑橘類が収穫できる片浦。もちろん目の前の相模湾では海の幸も。